

第2学年 道徳学習指導案

日時

場所 2年1組教室

授業者

- 1 主題名 歩調を合わせて
- 2 資料名 遠足で学んだこと
- 3 主題構成表

■内容項目

B- (9) 相互理解、寛容

自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。

■価値の分析

- ・人はそれぞれもの見方や考え方が異なる。個性があるため、互いが相手の考え方や立場を尊重することが大切である。また、寛容の心をもてば、人を許し、受け入れ、他者のよい面を積極的に認めようとすることができる。互いのもつ異なる個性を見つけ、違いを認め、謙虚な心をもって他に学び、自己を高めることが大切である。
- ・この時期の生徒は、お互いにももの見方や考え方に差異があると気付きながらも自分本位になって衝突したり、考え方の違いから友人関係に摩擦が生じることで、孤立したりする。しかしその一方で、自分の考えや意見を伝えることの大切さを感じる機会も増える。
- ・いろいろなもの見方や考え方から学び、自分自身を高め、他者とともに生きるという自制を伴った気持ちで判断し、行動することの大切さを理解させたい。

■内容項目から見た生徒の実態

- ・仲間の考えを、自分の考えと比較しながら聴く生徒は多い。また、仲間の考えを聴いて、はっとしたり、納得したりした経験をもつ生徒も多い。
- ・仲間の言動に注意をしたり、声を掛けたりする一方で、仲間との衝突を避けるために自分の考えを直接伝えなかったり、自分の思いを優先して相手の意見を聴こうとしなかったりする生徒もいる。
- ・自分に足りない性質を仲間の言動や考え方から学ぼうとする生徒もいるが、大半の生徒は自分と異なった考え方の生徒と関わりをもたない傾向がある。

■要因

- ・自分の考えに自信がないため、考えを補強するために仲間の考えに強い興味や関心をもっている。
- ・自分の立場や周りとの関係が壊れることを恐れ、仲間に対して自分の考えや意見を表出せず、自分の中に留めてしまう。
- ・一小一中で人間関係が固定化する傾向があるため、他者に対して「言っても変わらない」という思いをもち、働きかけることに半ば諦めの念を抱いている。

■資料の分析

- ・遠足中、班行動を守り、決まりを尊重しようと周囲に気を遣う「ぼく(藤野)」と、自分の得意な植物の説明に気を遣う「吉川君」の2人が衝突を乗り越えて、互いの理解を深めていく資料である。
- ・2人とも、遠足をよいものにしたという願いをもっている。しかし「ぼく」には、時間や決まりに几帳面で大筋を変えない一貫性があり、一方で「吉川君」には趣味を生かした心のゆとりと人を喜ばせる性質がある。自分の考えと相手の考えとの差異に悩む「ぼく」の気持ちに共感させたい。その後、二人が互いの意見を伝え合ったことが、互いの理解を深めたことに気付かせ、自分の意見を伝えることの大切さについて考えさせる。
- ・「ぼく」と「吉川君」の衝突を切り抜けるために班長の坂巻君が言った言葉が「みんなちがって、みんないい。」という金子みすゞの詩だった。この言葉の意味について考えるを通して、自分とは異なる個性や立場を尊重し、願いは同じでもやり方が異なったときに、相手の思いを知ろうとする態度を育てることにつなげたい。

■ねらい

同じ願いをもちながらも衝突してしまった「ぼく」と「吉川君」について考えることを通して、異なる個性や立場を尊重し、相手の思いを知ろうとする態度を育てる。

■展開の構想

- ・友達と考えや意見が上手く合わなかった経験について共有し、価値の方向付けをする。
- ・「ぼく」と「吉川君」がぶつかってしまった時の状況を考え、遠足をよりよいものにしたという同じ願いをもっていることに気付く。
- ・「吉川君」とぶつかりながらも共通の願いがあることに気付く、互いの考えを理解し合えた「ぼく」について考え、自分の考えを伝えたり、相手を知ろうしたりすることの大切さに気付く。
- ・導入で振り返った経験など自分の生活を想起し、今後の自分の生活に繋げていくことで、異なる個性や立場を尊重し、願いは同じでもやり方が異なったときに、相手の思いを知ろうとする態度を育てる。

■基本発問 (◎中心発問)

- 友達と考えや意見が上手く合わなかった経験はありますか。そのとき、どのようなことを感じましたか。
- 「ぼく」と「吉川君」がぶつかってしまったのはどうしてだろう。
- ◎改めて「みんなちがって、みんないい。」という言葉思い出したのはどのような思いからだろう。
- 自分とは異なる相手のよさから学んだことを生かすためには、どのようなことが大切だろう。

4 道徳の時間(本時)と他の教育活動との関連

<場の内容・ねらい>

■学校行事

「若狭研修」

- ・日常の学校生活では、経験できないことを体験する中で、相手意識をもって、活動することができるようにする。

■道徳の時間

「遠足で学んだこと」

内容項目 B- (9)

- ・同じ願いをもちながらも衝突してしまった「ぼく」と「吉川君」について考えることを通して、異なる個性や立場を尊重し、相手の思いを知ろうとする態度を育てる。

■学校行事

「合唱の集い」

- ・合唱の好き嫌い、得意不得意に関わらず、個々の思いを尊重しながら、学級全体で一つの合唱を創り上げられるようにする。

■学校行事

「人権集会」

- ・人権の五観点を意識した取組を通して、相手の気持ちを考えた行動ができているかを振り返り、仲間と進んで関わろうとする態度を育てる。

■日常生活

<学習>

- ・自分の思いと相手の思いを尊重しながら、班内での教え合いや学び合いを行うことで、お互いの力を伸ばす。

<部活動>

- ・個人の実力や部活動に対する思いの違いを尊重しながら、部活動に対する思いを伝え合ったり、相手の思いを受け止めたりしながら部活動に取り組む。

<委員会・係活動>

- ・他者との関わり合いの中で、相手意識の必要性を見出し、自分の思いだけでなく、相手の思いも考えながら、より充実した活動ができる。

<よいことみつけ「キラリスト」>

- ・普段関わりの深い仲間以外にも目を向けて、仲間のよい言動を積極的に見付ける。

<生徒の意識>

- ・〇〇さんみたいに声を掛けて、みんなを引っ張っていけるようになりたい。
- ・友達と意見を出し合いながら釣りやカヤックをすることができた。

- ・これからは相手と考えが違って、相手の考えを聴き、自分の考えも伝えることで、お互いが納得できる方法を見付けられるようにしたい。
- ・自分の意見を伝えて、お互いの意見をわかり合えるようにしたい。

- ・みんなで意見を出し合いながら合唱を創っていきたい。
- ・パート練習の時に、自分の提案したことが、みんなに認められて嬉しかった。

- ・〇〇さんは相手の気持ちを考えて行動するようにしていた。
- ・〇〇さんは友達の良いところを積極的に見付けていたので、私も見付けるようにした。

<指導・援助>

- ・あらゆる活動を通して、学校では見られない仲間の新たな一面を発見させる。
- ・困っている仲間積極的に関わらせる。

- ・他の生徒の考えを聞き、自分の考えと比較することで、人によって考えが異なることを理解し、考えを広め、深められるようにする。
- ・これまで友達と意見が合わなかった経験を想起させながら、振り返らせる。

- ・パートごとや学級全体で、自分たちの合唱のよい点や改善点を話し合う場を設ける。
- ・仲間の意見をまずは受け止めさせる。

- ・仲間と積極的に関わり、よさを見付けさせる。
- ・嫌な気持ちをする人がいないように、相手の気持ちを考えながら、行動させる。

【北中学校 人権の五観点】

行為

言葉

礼節

責任

呼应

5 本時の展開

	基本発問と予想される生徒の反応	指導・援助
導入	<p>1. 価値に関わる自分の感じ方・考え方をもつ。</p> <p>○友達と考えや意見が上手く合わなかった経験はありますか。そのとき、どのようなことを感じましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業で「全員挙手」を目指して声を掛けていたが、同じ班の一人が答えが分かっているのに全然挙手してくれなくて悲しくなった。 ・スポーツの集いの大縄跳びで、回数を多く跳ぶために縄を速く回した方がいいと思ったけれど、友達は速くせずに確実に跳んだ方がいいと言ったので、不満に思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に友達と考えや意見が上手く合わなかった経験についてアンケートを行う。 ・同じ目標をもちながらも友達と考えや意見が上手く合わなかった経験を取り上げ、価値の方向付けをする。
展開前段	<p>2. 資料「遠足で学んだこと」を読み、話し合う。</p> <p>○「ぼく」と「吉川君」がぶつかってしまったのはどうしてだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」は班のみんなと一緒に行動することが大切だと思っているけれど、「吉川君」は植物をゆっくり見ること大切だと思っているから。 ・「ぼく」も「吉川君」も遠足をよりよいものになりたいという願いは同じだったけど、大切にしたいことが違ったから。 <p>◎改めて「みんなちがって、みんないい。」という言葉の思い出したのはどのような思いからだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぼく」と「吉川君」の個性はそれぞれ違うけれど、どちらの個性も尊重されるべきだ。 ・「ぼく」も「吉川君」も遠足をよりよいものになりたいという思いは一緒だった。 ・「吉川君」の思いを聞いたから、「吉川君」も「ぼく」と同じように、遠足をよりよいものになりたいと思っていたことが知れた。 ・「ぼく」も「吉川君」も遠足をよりよいものになりたいという思いは一緒だったのだから、大切にしたいことを伝え合って、お互いの意見を取り入れて登山をすればよかった。 ・さっきは理解できなかったけれど、改めて「吉川君」と話してみると、「吉川君」の言葉や行動には、自分のことをよく理解しているからこそその信念があるからすごい。でも、「ぼく」にも自分のよさがあるから、そのよさを大事にしていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を読んで、「分かるなあ」と共感した部分を交流し、「ぼく」と「吉川君」の思いの違いをおさえる。 ・班行動を守り、決まりを尊重しようと周囲に気を遣う「ぼく」の姿と、自分の得意な植物の説明に気を遣う「吉川君」の姿に共感させる。 ・「ぼく」と「吉川君」の大切にしたいことが違う事を押さえる。その上で、なぜ大切にしているかを考えさせることで両者とも遠足をよりよいものになりたいという願いをもっていることに気付かせる。 ・自分の考えをカードに書いてから、クラスで共有する。共有したカードをもとに交流し、多様な意見を取り入れて考えを深めさせる。(タブレット使用) ・「吉川君」とぶつかりながらも互いの考えを理解し合えた「ぼく」の心情について考えさせる。 ・「ぼく」のすごいところはどこか改めて着目させたり、「ぼく」や「吉川君」が自分の思いを伝えていなかったらどのようになっていたかを考えさせたりすることで、自ら相手のことを理解しようとした行動の素晴らしさに気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>【評価の視点】</p> <p>「吉川君」とぶつかりながらも共通の願いがあることに気づき、互いの考えを理解し合えた「ぼく」の心情について、仲間との交流を通して、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしている。</p> </div>
展開後段	<p>3. 本時の学習を振り返る。</p> <p>○自分とは異なる相手のよさから学んだことを生かすためには、どのようなことが大切だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全員参加の授業を作るために、班長として「全員挙手」を目指して呼びかけた時、分かっているのに挙手しない人がいて、イライラしてしまった。でも、どうして挙手できないか、何に困っているか、その人の思いも聞くべきだった。これからは、自分の思いも伝えて、相手の気持ちも聞いて、お互いが納得する方法を見つけていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で振り返った経験など自分の生活を想起させながら、授業を通して考えたことをワークシートに記入させる。
終末	<p>4. 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる個性や立場を尊重し、願いは同じでもやり方が異なったときに、相手の思いを知ろうとする態度を育てる。